

食とアートを通して都市と農村の交流促進

特定非営利活動法人 倭文の郷

活動の目的

過疎が進む地方社会において、地域・世代間交流が希薄になる中、春・秋期「食とアートの集い／バンブーミュージックフェスタ」の開催を通して、交流が活発化すると共に地域文化の育成を行う。

活動の内容及び経過

今年度のコンサートは、春期で第9回、秋期で10回目となる。継続してきたこのコンサートは、県内外のアマチュアミュージシャンにとって、野外ステージでの発表の場の一つとして定着し、ミュージシャン間、地域住民との交流の場としても活用されている。また、地域における認知度も高まり、私たちのNPO活動への理解が深まりつつある。

4月16日春期「第9回食とアートの集い／バンブーミュージックフェスタ」は、好天に恵まれ、老若男女が集い、賑わう。竹林に爽やかな春風がそよぎ、出演の定番となった琴奏者が奏でる音色に聞き入る聴衆の姿が印象的だった。また、地元小学校の教諭2人が組むユニットの出演に、同校に通う子供たちの父兄から親しみある歓喜の声が飛び、地域と教育現場との好ましい繋がりが生まれているように感じた。来場者約80名。

10月8日秋期「第10回食とアートの集い／バンブーミュージックフェスタ」も、天候に恵まれ、秋空に抜ける快音が地域に鳴り響いた。今回初出演のシニアGSバンドは、世代を同じくする地域の高齢者にとっては、懐かしさに口ずさむ人も現れていた。また、竹林と言う自然に囲まれてのライブコンサート（生演奏）に、感動を呼び起こしていた。会場に隣接する古民家では、今回も竹細工のワークショップ、陶芸の展示も催し、来場者の交流が行われた。来場者約70名。

活動の成果・効果

今年度で10回目のコンサートを終え、継続することにより知名度がアップし、毎回、このコンサートを楽しみに来場するリピーター客が多くなっている。また、迎える地域では、日頃体験できないライブコンサート（生演奏）が身近に体感でき、テレビ・ラジオ等によるメディアでの音楽鑑賞と違った生演奏の迫力に感動すると共に、何でもない日常の自然環境（竹林）の活用に、これだけの多くの集客が可能であることを認識していた。そして地域住民、自らの手で整備、集客活動を行うことで、人が集い、まちに活力が生まれることを実感していました。そして、ここ数年の間に、自然観察会、田舎暮らし体験会等の地域イベントを定期的で開催するようになり、地域資源を活用する新た



なイベントの提案も出ている。次年度には、このバンブーミュージックフェスタに加え、久米ロッジを使ったJAZZコンサートの企画が持ち上がっており、ライブで音楽を楽しむ機会を増やすことも考えている。

今後の課題と問題点

現在、地元住民の中からの出演者が皆無の状況である。このコンサートを継続する上で、このまちの担い手である若者（高校生・大学生）の参加が必須であり、その人材発掘・育成が課題である。また、コピーバンドの多いアマチュアミュージシャンにとって、参加費（足代程度）の有料の場合、楽曲のコピーによる著作権侵害が問題となっています。オリジナル曲を持つアマチュアミュージシャンは少なく、コピーバンドの規制を行った場合、出演者に限りがあり、かつ聞き慣れた曲を希望する聴衆者、特に田舎生活者にとっては、コピー楽曲も楽しめる要因である。

- 代表者：爲貞祐二 ●所在地：津山市戸脇
- TEL：090-3631-3234 ●E-MAIL：towaki96@gmail.com
- URL：https://www.sitorinosato.jp
- 設立年：2013年 ●メンバー数：42名